

January 2019

終末リバイバルの使命の成就に向けて

ところが、良い地に蒔かれるとは、みことばを聞いてそれを悟る人のことで、その人はほんとうに実を結び、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍の実を結びます。

(マタイの福音書 13章23節)



代表 エルサレム杉澤

皆様の尊いご献金とお祈りを有難うございます。11月に遣わされたイスラエルチームで年度のみことばを受け、スタートした今年度の歩みも早3カ月目を迎えました。今回のチームは終末のリバイバルの使命の成就に向けて重要な意味合いを持つ派遣となりました。

当ミッションの母体となるThe Light of Eternal Agape 東京アンテオケ教会は、1984年に終末に建てられた教会として終末のリバイバルと終末の働きの使命に応答した教会です。

11月に与えられた年度のみことば「マタイ13章23節」の「悟る人」は、神さまの教えや約束のことばを理解し、受け取り、実行する人を指します。「悟る人」となり、更に徹底して主に祈り聞き、語られたことを忠実に実行するならば、本当に多くの実を結ぶ働きの段階に入ったことを主は語られました。

それに引き続き、東京アンテオケ教会のパウロ秋元牧師から12月9日の主日礼拝のメッセージの中で教会名を変えるよう示された経緯と新しい教会名が発表されました。今まで約30年余り「主の十字架クリスチャンセンター」の名前の実質「主の十字架を負い、批判中傷される中をも歩む」時を通過し終えたことや世界宣教の働きの実質、使命が次の段階に変わったことから、示された新しい名前は「The Light of Eternal Agape(CHRIST Church 永遠の、愛の恵みの光)東京アンテオケ教会」です。

聖書的に名前は実質を現します。神さまが愛を現され、その愛が私たちに光を与える。私たちは、神様に愛され、祝福され、証し人となる。そして、暗闇にいる人々に神さまの愛の光を伝えていくという、新しい段階、働きの実質を、教会を土台にした当ミッションの働きを用いて現して下さることでしょう。徹底して神さまのみこころだけを求め、祈り聞き従う中で、終末のリバイバルの使命の成就に向けて神さまが準備を整え、ミッションの働きと使命を全うさせてくださり、栄光を現して下さいます。

メッセージを語るパウロ秋元牧師
(イスラエル、ロシア系ユダヤ人教会にて)

